

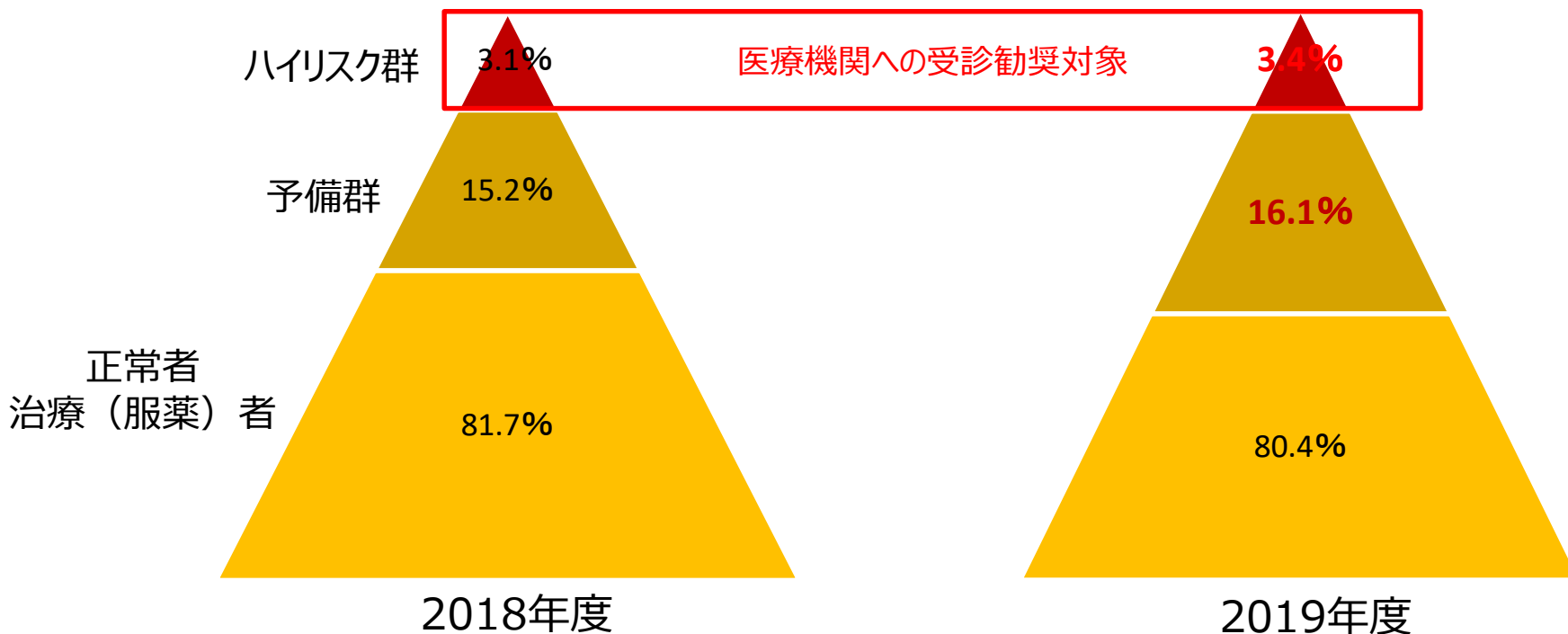
ハイリスク群（要治療域群）における健診受診後の行動と生活特性

～医療機関への受診の有無と、該当する生活習慣の視点から～

重症化予防（受診勧奨対象群の推移）

○健診受診者を三群にわけた場合の年次推移

健診受診者のデータより、正常者・治療（服薬）者、予備群、ハイリスク群（要治療域群）の3群にわけ、2018年から2019年における推移を比較した。2018年と2019年を比較すると、ハイリスク群、予備群ともに増加傾向にある。

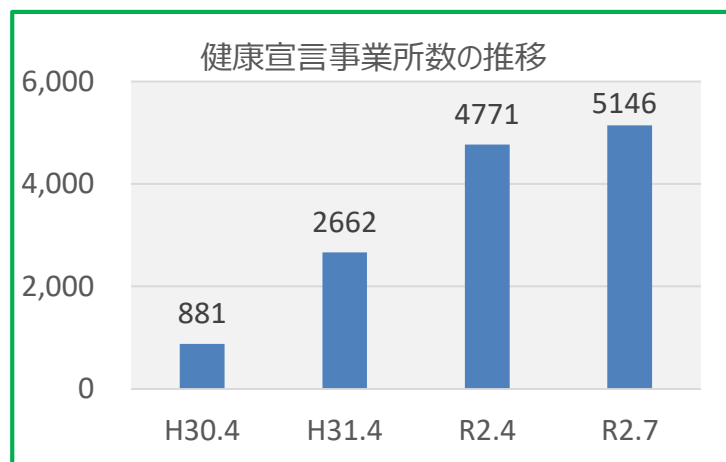


ハイリスク群	予備群	正常、治療（服薬）者
医療機関未受診者のうち、以下の基準のいずれかひとつでも該当する者 <ul style="list-style-type: none"> ・収縮期血圧 160mmHg以上 ・拡張期血圧 100mmHg以上 ・空腹時血糖 126mg/dl以上 ・HbA1c 6.5%以上 	医療機関未受診者のうち、以下の基準のいずれかひとつでも該当する者 <ul style="list-style-type: none"> ・収縮期血圧 130mmHg以上 ・拡張期血圧 85mmHg以上 ・空腹時血糖 110mg/dl以上 ・HbA1c 6.0%以上 	ハイリスク、予備群以外の者 (数値正常者、医療機関受診者、服薬者)

健診受診後の行動（ハイリスク群）

○ 健康宣言の有無別にみた健診受診後の行動

健康宣言事業所数は、令和2年7月末において全国で最も多いが、健診結果がハイリスク群の者において、健診終了後に医療機関へ受診している/いないについて、健康宣言/未宣言事業所ごとに年次比較を行った。



ハイリスク群とは

以下の基準のいずれかひとつでも該当する者

- ・収縮期血圧 160mmHg以上
- ・拡張期血圧 100mmHg以上
- ・空腹時血糖 126mg/dl以上
- ・HbA1c 6.5%以上



健診終了後にきちんと医療機関へ受診しているのか

【集計結果】

2018年度

	受診者	未受診者	受診割合
宣言事業所	4,664	1,925	70.8%
未宣言事業所	12,951	5,904	68.7%

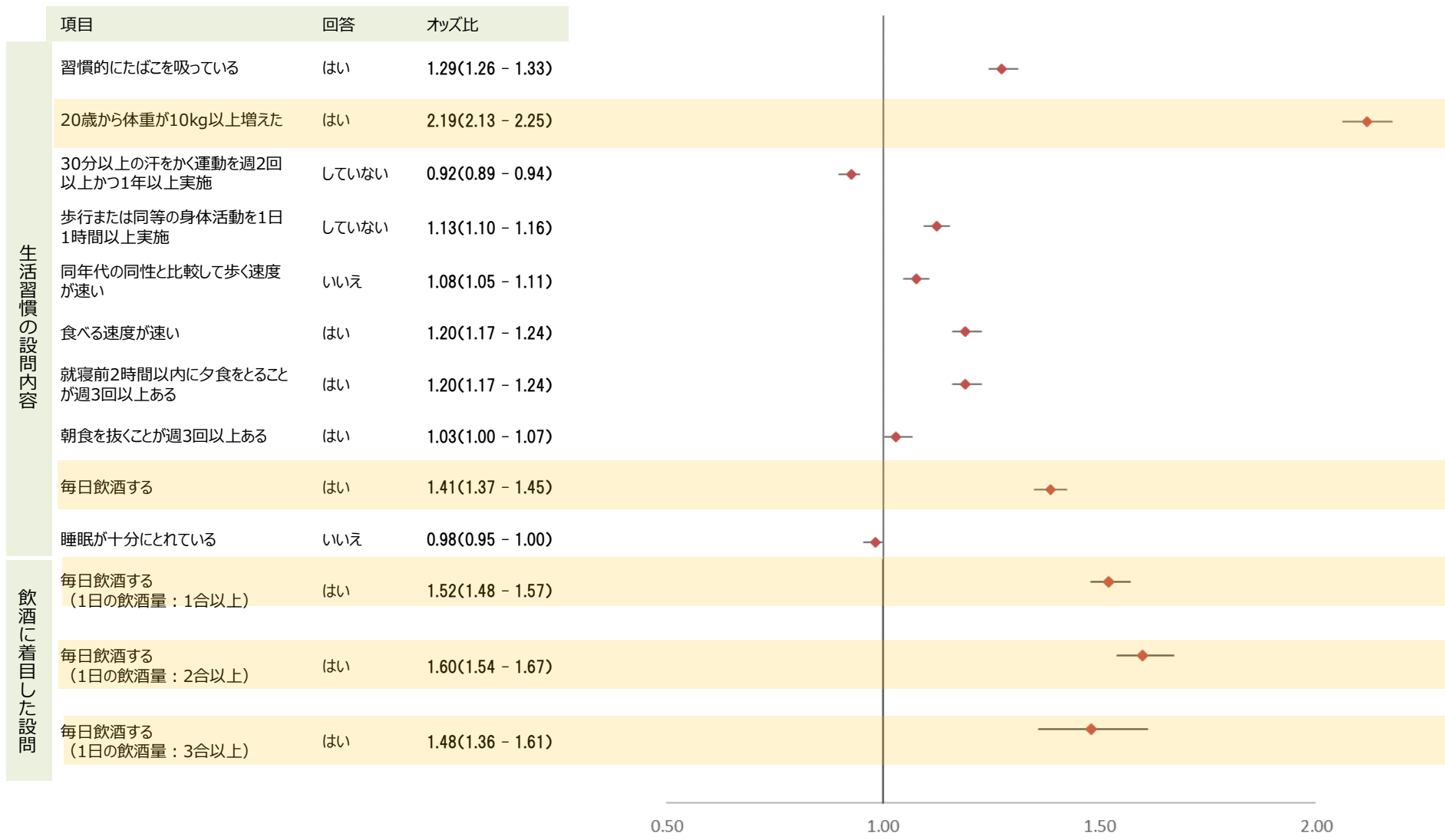
2019年度

	受診者	未受診者	受診割合
宣言事業所	4,622	2,176	68.0%
未宣言事業所	12,730	6,290	66.9%

- ・健康宣言の有無別に見ると、宣言事業所の方が健診終了後、ハイリスク群の医療機関への受診割合は高い傾向にある。
- ・年度で比較すると、2019年度の方が健康宣言事業所、未宣言事業所共に受診割合が低下している。

健診問診項目の回答状況から見た生活特性

○ ハイリスク群とそれ以外の2群に分け、各問診項目の回答状況をオッズ比を用いて分析した。どの生活習慣がハイリスク群となるオッズが高いかを一覧にまとめたものが下図である。



【結果】

- ・問診項目別に見ると、ハイリスク群には、20歳当時と比較した際体重が増加した者が最も多く、日常的な飲酒をする者が続く結果となった。
- ・運動習慣や歩く速さ、朝食を抜くこと、睡眠の質については、ハイリスク群に該当する生活習慣として、今回の調査ではあまり関連性が見られなかった。
- ・飲酒習慣については、ハイリスク群の該当者において、1日の飲酒量が日常的に1合を超える者が多い結果となった。

オッズ比とは

生命科学の分野を例にとると、ある疾患などへの罹りやすさを2群で比較して示す統計学の尺度。

ある疾患が、特定の生活習慣のある群Aにおいて100名中40名発症、特定の生活習慣のないB群で100名中20名が発症したとすると、A群のオッズは40/60、B群のオッズは20/80となり、これをA群のオッズ/B群のオッズで示したものがオッズ比となる。この例ではオッズ比は2.67となり、ある疾患が出現するリスクは、特定の生活習慣があるA群において、特定の生活習慣のないB群より2.67倍高いこととなる。

オッズ比が1である場合、ある疾患への罹りやすさが両群で同じことを示し、1より大きいことは、疾患への罹りやすさが高いことを意味する。逆に1より小さい場合は、ある疾患へ罹りにくいことを意味する。